

# 神戸時代

邦光史郎

ぼくは父親が新聞記者だったので、その転勤につれて、各地を転々とした。

生れたのは東京だが、その翌年には大阪、また東京、そして、こんどは神戸へやってきた。

小学校二年生の時であった。いまから約三十年ばかりむかしのことである。当時、東京の小学生はサービスの制服に、坊ちゃん刈り、靴は止め金のついた皮靴をはいていた。

ところが、神戸の小学校、正確にいえば摩耶小学校へ父につれられて行つてみると、坊ちゃん刈の生徒など一人もいなかつた。服は小倉服、靴は編上靴かゴム靴だったと記憶している。

どうしたものか、摩耶小学校は正門から石段を上るのでなくおりた所に玄関があつた。

左手に二宮尊徳の銅像がたつていた。雨の日で

あつたので、尊徳像の背負つてゐる薪もしめつて重そうであつた。ぼくは、父親と共に、校長室へつれていかれたが、すこしも心は彈まなかつた。

よそ見ばかりしているといつて父に叱られた。そのせいか、校長先生の顔は、すこしも憶えてい

ない。担任の先生は射場という人であつた。温厚で村夫子然とした人だつた。

この学校で印象に残つてゐるのは、月に一度、全校生徒が、そろつて摩耶山へ登る慣例になつていたことだつた。

摩耶山といえば、ぼくにとつては、あまりにもなつかしい。当時の小学生は勉強などあまりしなかつたから、ほとんど毎日、ぼくは摩耶山のふもとで遊び暮した。競馬俱楽部の坪の下に蟻地獄をみつけ、そのすり鉢の底に、蟻を投げ込んでは、

蟻地獄の主の出現を楽しんだ。こまかい砂粒がむくむくとち上って、大きなはさみが砂底から現れる瞬間に、ぞくりとする戦慄を覚えたものなのだ。

林の中の谷川でもよく遊んだ。ケーブル発着場近くにあつた池はぼくにとって一つの神秘なる場所であつたといえよう。めつたに人の訪れない山中の池には、菱の葉がしげり、そのみどりの水面には魔性がやどつてゐるようと思えた。

東京の家にはカンヌキでしめる門があつたが、神戸の家には、門はあつても、出入りのノップのついたドア式のくぐり戸であつた。家の前に、まるで谷川のように流れのはげしい溝があつて、小さな石橋が架つていた。

二、三軒はなれたところに、外人の家があつて、なんという花か知らぬが毒々しいほど朱い熱帯樹の花が咲いていた。外人といえは、すこし山手に外人学校があつたことを覚えている。

いつの秋であつたか、関西学院跡の運動場にサーカスのテントが張られた。そこはスリ鉢状のスタンドになつていて、それを通り抜ける時、ぼくには、その競技場が、古代ローマの円型戯場の遺跡のように思えてならなかつた。

当時、阪急電車の終点は、上筒井であつた。

いまでもよく覚えてゐるのは、父や母につれられて新開地の歓楽街を通り抜けた日の印象である。その時、ぼくは、小学校三年生であつたから大人の胸ぐらいしか身長がなかつた。そのため、大人には見えないものが、つい眼前に迫つてきたのである。それは、漢方薬店の店頭に飾られてい

た猿のしゃれこうべであつた。むなしく眼窓をみひらいたその怨めし気な頭骨が、ガラス瓶の中から、ぼくをみつめていたのだ。

その時の恐怖は、ながく残つた。けれど父母は、その時ぼくの対面した恐怖には全く気づいていなかつた。大人には見えないものが子供の心に迫り、そして、その恐怖や怒りの感情は、深い心の亀裂となつて、後年にまで残るものなのである。

二階の窓から眺めると、眉に迫るほどたかく青い摩耶山がそびえ、そして、夏には泳ぐことでのきた灘の海をあかく染めて夕陽が落ちていった神戸を、いまもぼくは忘れることができない。

まだ若かつた母に手をひかれて、波止場をたずねた日、長く尾を曳いて鳴つた汽笛のひびきを、いまもありありと覚えてゐるのだ。

だが、そのころは池であつたあたりがいまは埋立てられて、そこに福住小学校が建つてゐるなどと聞くと、そのあたりを、ふたたび訪ねたい気持と共に、自分の心の中に住んでゐる三十年前の神戸の町をこわしたくないために、訪ねることをためらう気持ちがつい向きかけた足を引き留めてしまうのである。

# 風の音にぞ

白川え・中西勝渥



佛教で言う「覚」の思想も、ヤマト言葉にホンヤクすれば、さしづめ「オドロキ」と言うことになろうか。

秋きぬと眼にはさやかに見えねども風の音にぞ  
おどろかれぬる（古今集）

私の郷里では「眼が覚める」ことを「おどろく」と言う。「今朝オドロイたらまだ五時だつた」などと、年のけげんか、この頃ついお国言葉がとび出るので、関東生れの女房は噴き出してしまふ何とも下卑た泥臭い方言にひびくらしいのであるが、方言と言うものは、しばしば雅びたヤマト言葉の名残りであるよう、「おどろく」も本来は「眼が覚める」の義なのである。転じて、ハツと己れに気がつくこと、むつかしく言えば、人間がその日常性から実存の己れに真向うことである。

もちろん、このオドロキもハツと氣のついたと言ふほどの意味で、今日風の「ビックリ」ではない私は、この敏行朝臣の歌が好きだ。夏の終りに

近づいてツクツクボウシが鳴き出すと、ふっと口

に出る。一見、道理に落ちた歌柄のようだが、詠みぶりが素直なせいか、しみじみとした調べがある。炎熱を耐えて来た者に存命の悦びをさえ感じさせるものがある。

×

ところで、この秋、古い文学仲間の高見順君がガンで他界した。その報らせの電話を新聞社から受けた時、私のオドロキは正に「眼覚める」思いであった。高見君とは格別親しく附合っていたわけではない。が、青年時代に同じ同人雑誌をはじめから、もう三十年以上になる。その「日暦」と言う薄っぺらな雑誌が、ほそぼそながら今もつづいている。彼は、その中心的な士だつた。そしてたまたま私と同年だつた。東京と神戸とはなればなれの三十年だつたが、会えば「やア」の一言だけで事足りた。

あれは、もう三年も前だつたか。某社の講演旅行で久しぶりに道後の宿で一緒になつた。その夜夕食を共にしたのが最後の出会いとなつてしまつた。昔々学生時代、本郷の赤門前のベーカリーではじめて出会つた時も、その長身に時代のユーワツを背負つてゐるかのような印象で、

病めるには非ざるぞ君現代の無限の悩み  
われは知るなり

ひそかにそんな戯れ歌を彼の風貌姿勢に当てはめていたのだが、五十年代の半ばを過ぎたその時も左翼文学青年当時のボーズとさして変りはなく、少しも衰えを見せぬその反俗精神に一驚したもの

だ。

今朝の新聞では、彼の業績に対する文化功労賞が贈られると言う。果してそのクンショウ、ある反俗の胸に似合うか、どうか。

×

辞書によると、「おどろく」の語源は「おほどる大蕩く」とある。蕩は水の揺れ動く様であろう。揺れた水は、必ず静まる。ビックリした精神は、やがて静寂に帰る。驚きが大きければ大きいほど、その静寂は深い。そしてその静寂の中で、人は実存の己れに真向うのだ。つまり、日常的な己れから眼を覺ますのだ。高見君の死は、われわれ同人仲間の誰にとっても、大きなオドロキだつただろう。が、私の場合、たまたま同年だつたことも手伝つて、何やら打ち覚める心地なのである。

秋きぬと眼にはさやかに見えねども――

この古今の歌は、私にとって一語一語象徴的である。この秋は、一きわ心に沁みるものがある。そう言えば「おどろかれぬる」も、その「れ」は自発の意。単にオドロイたのではない。文法的な正解は「おどろかずにはいられない」と言うほどの意味だが、高見順氏の死は、私を打睡の状からオドロカした秋風であつた。

△作家▽

□ 随想 □

# たか 石鯛 ガルボ

片岡眞太郎  
〈絵も〉



私の心弾む幻の天使たち

×

「タカは鷺のように狂暴な野性だ」「イシダイ  
つてやはり赤くて、顔のいかつい大物」「グレタ  
・ガルボ！ それ人の名？ 映画でそんな新人あ  
まり聞かないわね」

こんな具合になると、私はもう何となしに沈黙  
してしまっている自分に気付いている。

昨冬、庭先で愛育してきた鷹が逝き、桜の木蔭  
の鳥小屋には、似ても似つかぬカラスが跡目よろ  
しく入り、その下を、ドー・ベルマンにかかる雜  
種犬ソロリとチロリンのちょろちょろと往ききし  
ているのが、ふと目に止ると果てしなくため息が  
出てくるのである。

九州の英彦山から宝塚の庭先へ来て、よくなつ  
いていた。何かと不自由だった私は、彼のための  
一匹の魚が、何時のまにか、わが家の夕餉の膳に  
なつてゐるたびに、自若として大空の彼方を見詰  
める姿がいとしくて心中で詫びた。だから、日中  
何度も、満腹するまで大口を開けて呼ぶ無礼のカラ  
スは論外に、何時しかわが志の衰える日、駒鳥や  
うぐいすの世話をみるだろう歳まで、ただ幻を追  
うしかないのだと想いが巡るばかりなのである。  
彼との会話から生れる私の鷹の作品は、余り売  
れたことがない。それは翼を拡げ翼いかからんば  
かりの勇姿でなく、勇者の内側にある弧高で屹立  
する風雪を淋しいばかりに描いてしまうからだと  
友人がいう。八代将軍吉宗が再興した鷹狩の最盛  
期は、江戸の近郊隅田川、江戸川沿岸に將軍家專

用の鷹場は五十四カ所をかぞえ、毎年松前、津軽、南部など東北の藩から献上させた。その値タカ一羽反物二十反と云われ、「鷹はうえても穂をつます」の諺を残し、我等の視野から静かに消えつつある。

神戸港から高知航路で直行する私の行きつけの荒磯、甲の浦の「赤塔バエ」がTVに映ったとき、磯の周辺に押し寄せる高波や、物干竿ぐらいの剛竿を、オーバー・ヘッド・キャスティングする豪壮な石鯛釣の重量感に家族が一驚して、最高の男性的スポーツの一つで……と浮わづたアナウンサーの解説をよそに、もうこんな危険なことはせんぐれといった。もつとも私は何十貫目の餌（ウニ）を投入してきたが、昨秋から形をみない。底物釣師達に絶対浮気させない魅力をもつ幻の魚石鯛は、銀白色の体側にナス紺色の美しい七本の縦縞があり、水平に出るとう紫のいぶし銀、その風貌野武士の面魂に見える。普通4キロで体重の5倍の剛力無双の磯の王者。一日中海をにらんで座し、忍耐力の限界を試されて帰るばかりだから、いと簡単に、アレだろと知つたかぶりされるともう私は返事も、説明の気も失せるのである。

もともと釣は偶然だった。夜更しの多い私に、最初家内が健康的な魚釣を奨めた時は、あんなことをするとと思うのかと一喝した記憶が蘇る。家内が勝手に作る作品を展覧会に持ちこんだことからこの業に埋没し、やがて貧しく、その上釣狂になつても、私には責任のないよう、時々ぼやきわが寝室の天井に貼られた魚拓、記録物の尺三寸のへら鮒に、君の釣技のせいではないよと慰められる。海は、しかし今「海峡」連作の母胎となり、

以後、朝日ジャーナル連載小説邪宗門の取材で高橋和己と厳寒の下北半島に難行の旅したとき、この荒寥の地の果て、幻の海峡の真打に会い制作の強い裏打を得た。幻の魚の正しい賜物なのだ。

「グレタ・ガルボの美しさ」などと私は安易には触れない。私は年令的にも充分受取れる背景ではなかつたから、映画館の片隅で独り見入つた無差別のシーンから「聖母ガルボ帝国」の何んたる

かもしらずに、一種の畏敬の憧れを抱き、すぐ忘れた。戦後モンロー・ヤリズ・ティラーが騒がれた時、私は妙にひつかつていて、その因が、ガルボとマーナ、ロイの幻にあつたことに気付くのはずつとのちであつた。神秘的な美貌と悲劇的なロマンスの香り、パートイギライ、ベレーの地味な姿での僅かの外出などの伝説的女優より、Stockholm の departgirl グレタ・ゲスターソンでよい。求人作用には、透明の波動がきちんと伝わつて来るようなあれば。私はカンジンスキーラ・フォートリエに通じた風の女性は好めない。先日もA女が、男優では、矢張りボワイエとボガードだと、例の目の美しさや男の深いしわの意味に触れるので、ビール党が久しぶりにブランディを手にした折のように心が動き、早速とガルボとロイを持ち出したのであつた。九月、折しも、二ノチカ、クリスチナ女王など5本が再映されると聞く。映画界に未だ良識が残つていたのか。この不毛の現代に、幻の天使が静かに舞い降りてくる。「黄金の花咲くケメトの地」——耳にしたミタニンの王は、アメンホテプ三世に申入れた。

「貴王の地に塵芥の様に多い金を送れ」

北欧の銘菓

# ユーハイム コンフェクト



バウムクーヘン

〈ピラミッドケーキ〉

クッキー

ムンデット

シモン

デビルドチーズビスケット

各種高級洋菓子



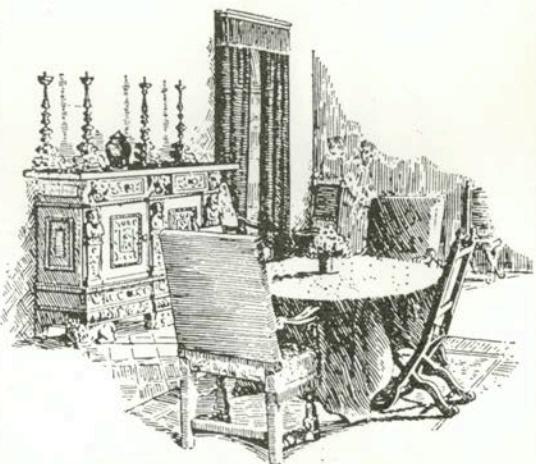
本社・工場 / 神戸市葺合区熊内町1丁目 TEL 22-1164・9865

熊内店 / (市立美術館隣)

三宮店 / 三宮生田筋(階上喫茶室)TEL 33-7343・0156・4314

神戸 / 大丸店・阪急店・鉄道弘済会・三越店

家具・室内装飾・工芸品



## 永田良介商店

大丸前 TEL { 39 3737  
3739 }

さんちかタウン レディスコーナー  
10月1日オープン



靴と舶来雑貨 クロス  
神戸 トア・ロード TEL 33-0998  
代表 39-1781  
大阪 阪神百貨店 TEL (361) 1201



きものと細貨  
**おんざら庵**

神戸

西 店 / 三宮センター街・電話 33-8836(代)

東 店 / 三宮センター街・電話 33-0629

三宮店 / 三宮地下街・電話 39-4303

東京

新橋店 / 新橋 2 丁目・電話 571-0807

銀座店 / 小松ストアー地階・電話 572-5151(代)

□ 神戸つ子放談 □

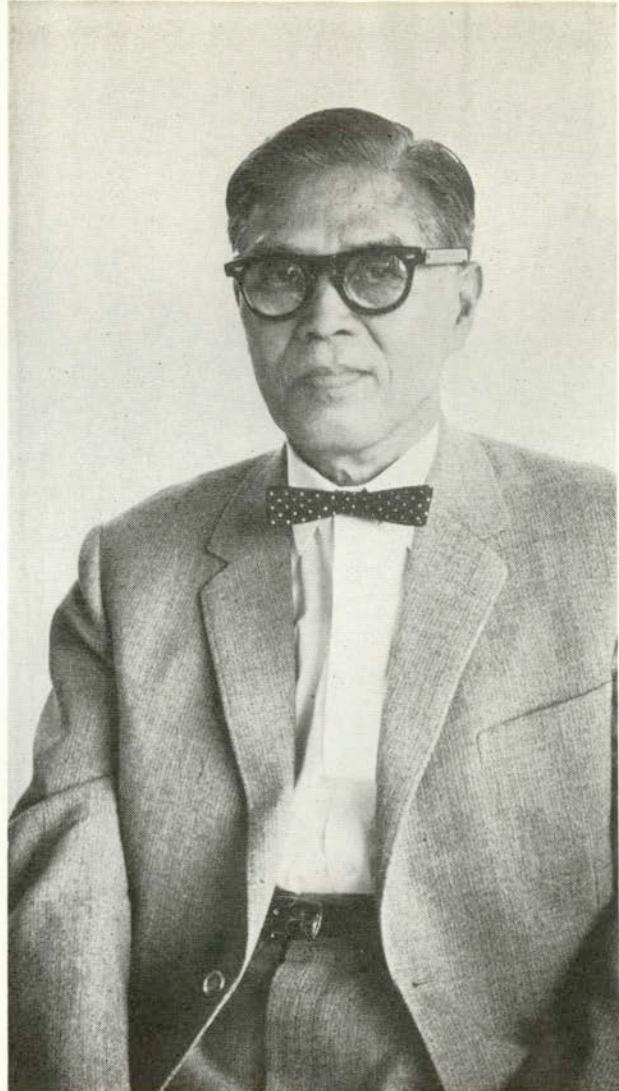
# 青年にほしいひたむきな情熱

森 治樹（資生堂社長）

去る8月21日、六甲山ホテルにおいて、神戸青年会議所の夏季セミナーがひらかれた。 今月の神戸つ子放談にご登場をお願いした、資生堂社長の森治樹氏は、その夏季セミナーの講師として「これからの人間と人間関係」というテーマのもとに講演されJCの各メンバーに多大の感銘を与えた。

神戸高商出身の森社長は、講演後の貴重な時間を使ひ子放談のためにさいてくださいり、学生時代の思い出から神戸の進路にたいする忠言などにわたって卒直なご意見を披歴された。

神戸高商時代の思い出  
グリークラブで活躍したこと



——最初に神戸高商在学時代の思い出ということで、お話ししいただけます。

「そうですね。思い出といつても大した武勇伝があるわけでもないんですがねえ。

やはり思い出すことといえば、グリークラブに入つて活躍したことですね。グリークラブといつても、今日の大学のクラブのようにスケールの大きなものではなかつたけれども、質的には相当高いレベルに達していたんじゃないかと思います。

いつだつたか、神戸高商と関西学院、それから神戸女学院の三校のグリークラブで、合同の音楽会を開いたことがあります。聚楽館でやりましてね。現代では、そんなことはなんでもないことのように思われるでしょうが、当時の試みとしては大変なことだったんです。神戸高商といえば、ずいぶんかたい学校だったし、女学生と一緒に歌をうたうとはなにことかというわけです。

神戸女学院などはかなり進歩的な女学校でしたが、それでも学校当局としては、なかなか許可を出さない。それで結局は、個人の資格においてやるのならよろしいということになりましたね。もう40年ほども昔のことですが今世の中からは想像もつかぬくらい厳しかったわけですね。

### 音楽をつうじて

「そんなわけで、今日に至るまで私は音楽とは縁が切れなかつた。はじめは、また、ごく趣味的にやつていたのですが、だんだん深入りしてしまって、ドイツ人教師について本格的に歌の勉強をしたものですね。どうも私は、なにごとにせよ、中途半端な、いいかけんのところ

で妥協するということができるないタチらしい。徹底的につきつめてやらないと気がすまないというところがあるのですね。

もともとは、たんに趣味にすぎなかつた音楽が、卒業後40年もやつてゐる間に、今では一つの社会運動にまで広がつてゐるんですよ。つまり、音楽をつうじて社会を明るくしようとういう運動ですね。

そのためには先ず職場音楽を盛んにして、その質を高めていかなくてはならない。だから、その職場音楽のすぐれた指導者を養成する必要があるわけで、そういう人たちのための学校があるわけですね。私はそこの講師をしていて、主に発声法を教えています。また、月に一回、日比谷公会堂で『みんなで歌おう音楽会』というのをやつてゐるのですが、よい歌をうたおう、心の明るくなる歌をうたおうというのが、いちばん大きな願いといえるでしょうね。

実さい、歌をうたうというのは大変いことで、青少年にとって得るところは必ず大きいものがあると思いますね。私自身、ときどきステージにも立ちますし、テレビやラジオなどで歌うこともありますよ。若い人々にぜひお勧めしたいことですね。」

### 青年は世界的視野に立つて

#### ものごとを考えよ

——ご承知のよう、神戸は東西に細長く伸びた都市でそういう地形的な面での狭さという制約があります。また、産業の面では造船、海運、酒造、というような産業が神戸を代表しているわけですが、こういった地元産業が最近どうもふるわないと感じがつて、なかには斜陽神戸という声もきかれます。神戸の将来はどうあるべきか、という問題については、各方面から真剣な提案が出されていますが、その一つとして例えば神戸を観光都市に、という意見もあるようです。その点についてはどうお考えでしょうか？

「私は、神戸の現状についてそれほど詳しく知つてい

るわけではないので、もし、まちがいがあれば困るので  
すが、今のお話から判断しますと、観光都市に、という  
考えには、あまり賛成したくありませんね。私は、だい  
たい観光といふものにはそれほど重きをおいていない。  
それに、神戸に日本の、全世界的に通用する観光資源が

あるわけではないでしょう。六甲山があるではないかといわれるかもしれません、それでも世界的なスケールという点になると疑問があると思いますね。

ではないですか。もつとスケールの大きな考え方を持つ  
てもらいたいですね。ただ、観光ということではなく、リ  
クリエーションとかレジャー施設を充実させるというの  
は、市民生活を豊かにするという意味でいいことだと思  
っています。その点からみれば、神戸の自然の利とか地  
の利というものは、もつともっと生かせるのではないか  
でしょうか。

それから、もう一つ言いたいことは、神戸の人が、特に青年諸君が、自分を神戸っ子という小さなワクのなかに閉じこめてしまわないようについてのことですね。むしろ、世界的な視野で全体をよく見渡して、ものごとを考えるというふうであってほしい。私は鳥取県生まれの人間ですが、いわゆる県人会なるものにも入っていない。そういう狭いワクに自分を閉じこめるのはおかしいことですよ。つまり、どんな場合でも大きな立場に立つて、考えてほしいということですね。」

——よく神戸は文化不毛の地などといわれ、例えば総合的な文化センターもなければ、美術館もありません。そういう文化的な施設の必要性は、あちこちで論じられているのですが、なかなか実現できそうもありませんが

「それは妙なことです。最近は地方の都市にも、文化の粹といつてもいいような立派な文化施設が生まれて

いる時代です。それは当然、そういうものがあつて然るべきなんですよ。そういう文化の中心施設が神戸にないというのはおかしな話です。それはなにも特に神戸だけに限られた問題ではなくて、どこの都市にもなければ困るというものですね。

それは神戸の後進性をあらわしているのではないですかね。あるいは田舎性を示す好例といつてもいいかもしませんね。

そこで、それならばどうすればいいかという問題が出てきますが、それはもう青年のすべてが一丸となつて、そうした現状を打開していく以外に方法はありません。はじめから諦めていてはいけないですよ。とにかくひたむきになつて、悪い所は是正していかなくてはならないので、そういう一途な情熱を若い人に望みたいですね。明治維新をなしとげたのも、青年の力が中心になつてきました。

そういう場合、誰かがやってくれないだろうかという  
ような他力本願では絶対にダメでしょうね。それはあなた  
の方自身の手でやり上げなくてはダメなんです。そういう  
意気込みがなくて、神戸の文化がどうとか、神戸の将  
来性がどうとか論じてみても、しょせんナンセンスです  
よ。

また、いろいろ言つてみたけど、神戸を十分知らない方もあるでしようが、意のあるところはくみとつていただけるかと思つています。」  
（文責編集部）

神戸の後進性のあらわれた

——よく神戸には文化不毛の地などといわれ、例えは総合的な文化センターもなければ、美術館もありません。そういう文化的な施設の必要性は、あちこちで論じられ

ているのですが、なかなか実現できそうもありませんが

\* \* \* \*

X

×

X

X

X

X

## 経済ポケット

### ジャーナル



業務提携によってコストダウンし利益確保を図ろうとしているが、榎並社長も合理化推進のため新田ベルトとの業務提携に踏み切ったものである。

### ★港湾管理権問題で

#### 市長カンカン

神戸港は日本の二大貿易港として年々、貨物取り扱い量が急増し、それに伴つた港湾施設の整備が強く要請されている。ところが築港費用はほとんどが地元神戸市の負担で、市民の負担も大きい。原口市長は「港は国全体で利用するものであり、貿易をもつと伸ばそ

うとするなら、国が大きな資金を港湾に投入すべきだ」と主張、運輸省も四十一年度から外國貿易埠頭事業團をつくって国の金を投入しようとしている。これ

は、神戸、横浜、名古屋の三大港を対象にしたものだ

め、三市の首脳もカンカンカ

ン。原口市長は「市の管理権にふれるのはケシカラ

ン。政府は道路、河川に力

ネは投じても港をお粗末に扱いすぎている。代議士も

投票にならない港にはカオを

向けない全国の港湾都市を

集めて、全国港湾政治連盟をつくる」と意気込んでい

る。

### ★池田前首相死去

高度経済成長で世界的な評価を受けていた池田勇人前首相が八月十三日に、東大付属病院でガンのため死

亡した。六十五才。「貧乏人は麦を食え」などいくつ

かの放言、失言もしたが、

根は人情家で、神戸には、

特に河野さんのように関係

はなかつたが、ベトナム戦

争の激化、経済危機の深刻化、日韓新時代の開幕など内外の重要な問題が山積しているだけに、もう少し長生きしてもらいたかった政治家である。

★ソ連に経済使節団派遣 中ソ論争の激化、発展から、ソ連もついに利潤概念を取り入れ、最近は共産主義国ではありえないと思われていた失業問題まで話題になつてゐるが、日本の外務省、財界もついに正式の訪ソ経済使節団を八月二十四日から九月十五日までソ連に派遣した。団長は財界の主流である経團連副会長の植村甲午郎氏で、団員は石田トヨタ自動車会長、駒井日立製作所社長、木下本州製紙社長ら十三人で、砂野川崎重工社長も植村團長の要請で特に参加した。川重は、これまで共産圏との取り引きはまったくなかつたが、砂野社長のソ連訪問により、今後川重がどう進むか注目される。

### ★神戸製鋼

中国と輸出契約

神戸製鋼は、八月上旬、中国技術振興公司との間で総額十七億五千万円にほる特殊鋼、線材、圧延設備の輸出契約を結んだ。こ

### ★阪東調帶

新田ベルトと業務提携

阪東調帶ゴムは大阪の新田ベルトと業務提携するこになり、榎並社長と御手洗社長の間で正式式調印が八月九日行なわれた。これは両社の代表的な製品を相互販売し、単種多量生産し、相互利益向上を図るのがねらい。いまゴム工業界では

### \* KOBEオフィスレディ \*



岡サチコ（23才）  
毎日新聞神戸支局勤務

男っ気の多い支局の中で優しい岡さんの笑顔に出逢うとふんいきがなごやかになる。市立西宮高校出身の岡さんは読書の好きな清楚なお嬢さん。「4月からこの職場で働いていますけど皆さん親切で……」と楽しそうだ。

ポン・パリー



何から何まで  
渋好みのパリッ子

ポン・パリーは洋菓子の  
本場フランスの味です  
ブドーと洋酒を上品に、  
ミックスした風味あるお  
菓子です



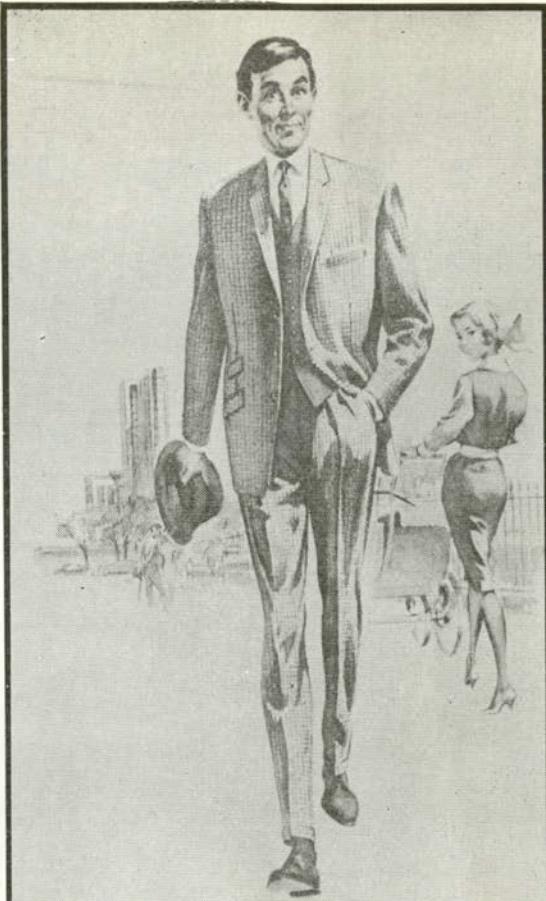
アルmond

本店 神戸市生田区元町通2の43  
直売所 神戸大丸・新聞会館秀品店  
本店TEL ⑧82203

高級紳士服

山名洋服店

神戸三宮生田筋 ⑧85797





美しい



正確なメガネ

## 服部メガネ店

大丸前 TEL (33) 1123

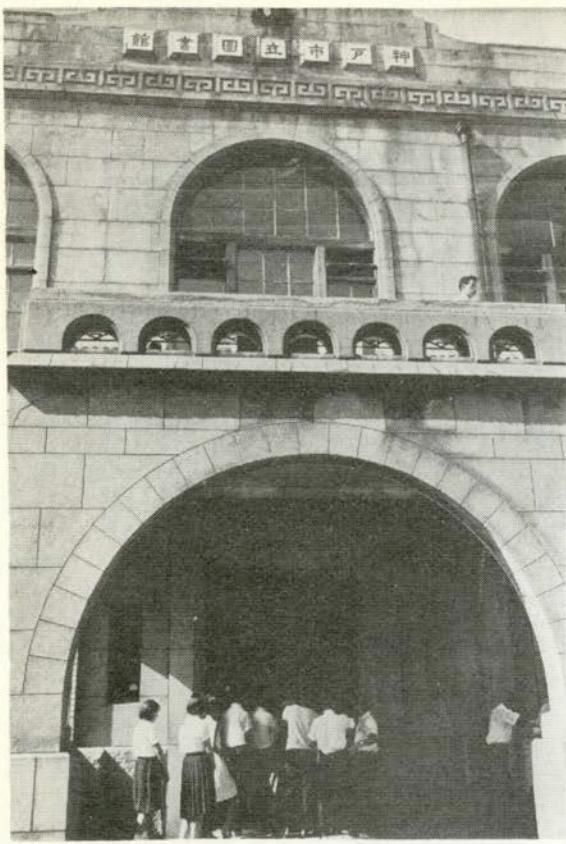
吳神  
みよしや

大阪店 電話神戸③三三八八九番  
姫路店 阪神百貨店三階  
電話 大阪 姫路 五五四八番  
衣裳部 電話 大阪 姫路 二二一一番  
電話 ③三宮町三丁目柳筋  
五 一六五番

— 32 —

# 神戸市立図書館

松原新一 撮影／緒方しげを



・神戸市立図書館の入口。満員で入館できない人が根気強く順番を待っている。

夏休みが終りに近づく。すると、図書館が繁忙する。宿題に追われた中学生や高校生が、勉強の場を求めて、どつと図書館に押しかけるからである。8月いっぱいは入口に「男子満員」「女子満員」のたれふだがはずされることはない。昼頃に出かけていったのでは、とても席がない。入りそこねた生徒たちが、席のあくのを待つて入口周辺に長い列をつくっている。炎天下にご苦労さ

んといいたい話だが、みんな辛抱づよく並んでいる。もう半時間ちかくも待ちつづけた、というある女子高校生から聞いた話をひとつ――。

「いいかげんウンザリするけど、折角来たんだから、なにがなんでも待つつもり。家にいると、ついダラダラするし、宿題はいっぱいまとまっているし、この辺で背水の陣をしかないと、学校が始まつてから大変ですからね。でも、夏休みの宿題つておかしいと思うね。暑くて勉強でききないから、学校がお休みになるんでしょ。それなのに宿題を出されたんじゃ、なんのための休みか分らないでしょ。また、先生方はゆつくりお休みがとれていいかもしれないけれど。」

テストでしごかれ、宿題でしごかれる現代高校生の嘆きを代弁しているのかもしれない。横からひとりの男子高校生が口をはさんだ。

「実さい頭にくるよ。だいたい日本は労働者を優遇しすぎてるんとちがうやろか。労働基準法もあるし、労働組合もあるし。僕らにはそんなものはあらへんからね。

高校生勉強基準法でもつくつてほしいね。それで、高校生の勉強時間を、学校と家庭と合わせて8時間に決めてしまふんや。そしたら夜中の2時や3時まで勉強せんでもすむわけやろ。深夜勉強は法律違反になるわけやな。

それから夏休みは、いつさい宿題を出してはならないという規則もつくる。そしたら、図書館かて、こんなに満員にならんですむはずやけどな」

何年生かと聞くと、「三年生」と答えた。夏休みをいかに利用するかによって来春の大学入試の合否が決まる。先生や両親にいつもそうおどかされているので図書館へくるのは、まあ息抜きのためですとつけ加えた

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

わが国に図書館令の制定公布されたのは、明治32年11月のことである。京都に府立図書館の開館されたのがその一年後だった。

明治35年、神戸市に桃木書院という私立図書館が開設されたが、これが神戸市立図書館の前身ともいべきもので、この書院の蔵書が、後に市立図書館蔵書の母体になった。

神戸市会が図書館設立を決定したのが明治44年3月。

同年4月には、神戸市立図書館が正式に設立された。当時の所在地は相生町だった。現在の大倉山に図書館が新しく建設されたのが、大正10年10月。以後、こんにちに至るまで神戸市民のための公共図書館として、長く市民に親しまれてきたわけである。

ごく簡単に、現在の市立図書館の内容を紹介しておきたい。

図書の閲覧時間は午前8時30分から午後9時まで。毎週月曜日と開館記念日の11月20日・館内整理日である毎月20日、毎年4月のばく書期は休館日になっている。書庫の蔵書は約21万冊。利用者が自分で直接本をとつ

て選ぶことのできる公開図書室には、一般の利用率の高い図書が約1万冊ほど集められている新着図書、雑誌、新刊の小説をはじめ、中学・高校生向きの参考書などが、数多く集められており、全入館者のうち8割までがこの公開図書室を利用しているという。

収容人員は、階下閲覧室の成人席が60名。階上大閲覧室が432名。他に50名を収容できる児童室がある。

図書館の主要任務が図書の貸出であることは、いうまでもないが、いまひとつ、相談事務を図書館の重要な仕事として数えておかなくてはなるまい。ここで「相談事務」というのは、「図書館によせられた質問、すなわち市民の日常生活・実業実務・調査研究等において生ずる問題について、図書館の資料と機能を活用して、これに応えること、および質問の予想される主題に關し、必要な資料を整備・作成すること」である。(神戸市立図書館相談事務規程)つまり、ひと口にいえば、市民のための百科辞典として、日常生活に結びついた疑問に答えようというわけだ。

もともと公共図書館には、自然発生的に相談係的な仕事があつたといえるが、それが専門的なシステムとして採用されるようになつたのは最近のことである。神戸の場合は昭和26年から制度化されているが、全国の他都市の図書館にくらべて一番早かつたといわれている。

相談室の実さいの模様を紹介しておこう。

70歳くらいの老人が、ひょっこり訪ねてきた。「ちょっとお願いがありまして」と、その老人が持ちこんだ相談ことは次のようなことだった。

ある日、家の蔵を整理してたら、いつの時代のものか分らぬが、数枚の古銭が出てきた。いったい、どれだけの値うちのあるものか、家じゅうで話しあつたが見当がつくはずもない。図書館の相談室で鑑定をお願いしてみようということになった。さて、これらの古銭は永く保存する価値のあるものかどうか、また何時代のものであるか、ご教示をお願いしたい。ざつと、そういう

用件だった。

だが、残念ながら、古銭・古文書・骨とう品などの鑑定は、お断り申し上げるというのが相談室の建て前である。ただ、それについては、コレコレシカジカの資料があるという程度のことは教えることができる。

「図書館の人なら、なんでも知つてはると思ってましたんやけどなア。そうですか、分りませんかなア」 残念そうに言い残して、老人は引きあげていった。

よろず相談ごと受けたまわり所みたいに思われているらしく、珍問、難問がひっきりなしに持ちこまれる。ほとんどが電話の質問だ。いくつかの実例をあげておく。

「ムカデの足は何本あるか」

「神戸で自動車を貸してくれる所を教えてください」

「日本婦人のうち左ききの人は何%くらいか」

「13年前の千円札の値うちを教えてほしい」

「これから友人の結婚式に出かけるのだが、どんな挨拶をしたらよいものか」

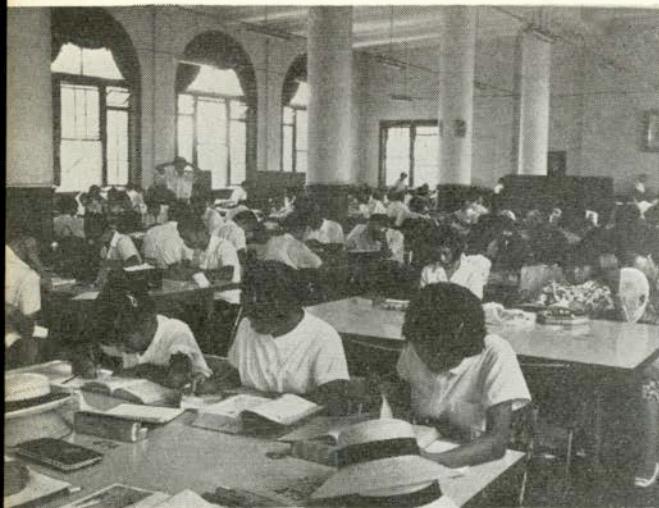
「いか、たこ、なまこの栄養価はどれくらいか」

ありとあらゆる質問が飛び出してくる。電話や文書をつうじての質問が一日に30件ちかくあるという。それにたいして、遅くとも10分以内には一応の答えを出さなくてはならない。人名カード、時事用語その他の資料がないから整然ととてえられている。

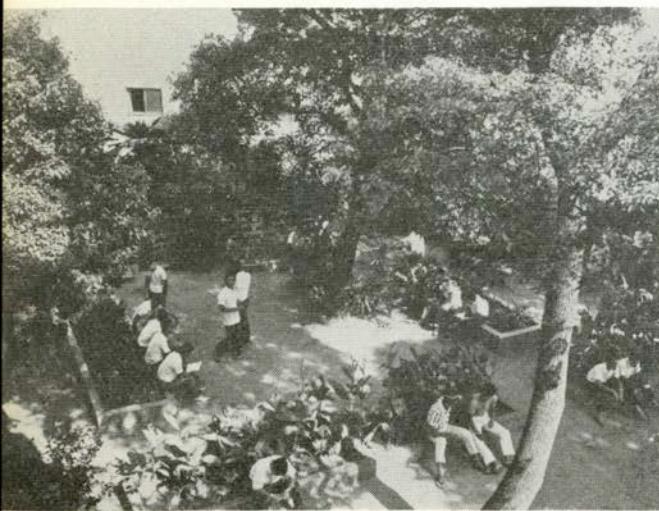
といって、解答を与えてはならないという場合だってある。古文書などの鑑定問題がそうだし、良書の推せんもダメ（解答者個人の主觀がはいるおそれがあるから）商店・会社の信用調査、身上相談、法律相談など、いずれもダメである。だが、なかには、電話でんめんと結婚問題の相談をもちかけたり、くどくどと自分の体の異状を訴え、治療方法をたずねたりする人もあるという。

ある相談室の職員から聞いた話をひとつ。

「まア、市民の日常生活に關係した問題について、一応の解答が出せるという態勢になつていいんです。が、なんでもかんでも答えるといふわかにはいきません。宿題などもお断りしているのです。父親らしい人が、数学の問題を読みあげたりして、解答方法を教えて



・階上大閲覧室は、静かな勉強場所を求める中学高校生たちでいっぱい。



・中庭の緑蔭でいこう人。読書の疲れを、ひとときここでいやす。

くれなんていってこられるんですが、そういうのはどうも困りますね。長年、この仕事をやってきていますから、だいたいこれは宿題だな、ということは判断がつきますね。

これは、だいぶ前のことだけど、ふらりと中学生がはいてきましたね。青白い顔して、催眠薬の致死量を教えてくれというんですよ。その時、直観的にどうもおかしいぞと思ったんです。それで、ちょっと調べるのに時間がかかるからといって、隣の出納室で待つてもらいました。質問用紙に名前と住所が記入してあったので、大急ぎで電話帳を調べたら、うまくみつかりました。実はお宅のお子さんが、こうこう

う、こういうことで図書館に来ておられますがといってお電話したら、お母さんがびっくりして、あわてて引きとりにこられた。近頃、様子がおかしいので、心配していましたといふとでした。」

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

不景気になると、図書館が繁昌する。これはウソみたいな本当の話だ。図書館のなかにも、世間の動きがはつきりと反映されている。ある職員は次のように

「不景気と図書館の関係なんていうと大きさですけれどね、また、それらしい感じのする時もありますね。開館と同時にドヤドヤと十人くらいがはいつてくる。いわゆる雇用労働者たちですね。不況期にはよくそういう光景にぶつかりますよ。『先陣争い一番乗り』なんて叫びながら飛びこんでくる人がある。失業者とか、仕事にぶれた労働者たちが、どこといって行く当てもないので、仕方なしに図書館へやってくるんでしょう。なにし



・ユーモラスな「満員」の告示板

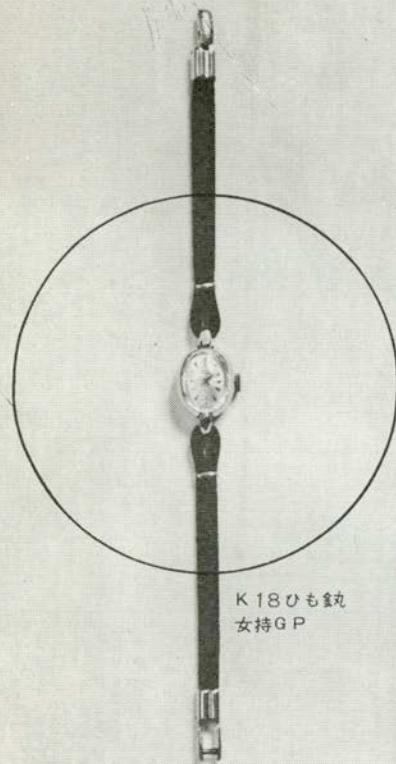
ところは入館料タダですからね。朝から晩までここにいて、小説読んだり、物思いにふけたりしているわけですね。うまくいけば、喫煙所でタバコのすいがらにありつけるかもしれない、そんな悲愴な願いで図書館通いをしている人もいるのです。

いつだつたか、アンコふうの人が代数学の本を借り出して、「オレは京都大学を卒業したんだぞ」なんて嬉しそうに話していたこともありますね。労務者のための厚生施設や社会施設はいろいろあるはずなんですが、神戸の労務者というのは、やはりどこかコスマボリタン的な性格があるのでしょうね、お役所的な雰囲気の所へは行きたがらないらしい。その点、この図書館はいずれに気兼ねもいらぬ、気軽利用できるという心安さがあるのかもしれませんね。」

もちろん、市立図書館には全然悩みがないわけではない。公共図書館とはいながら、図書館が今や高校生や中学生のための席貸しの場所みたいになっているのも、本来の目的からいえば少しおかしなことといえばそうだ。本を借りて読むというより、ただの勉強室になってしまった感がある。家庭にちゃんとした勉強部室がないという、わが国の家庭環境にも問題はあるが、席借り生徒が閲覧室を占拠して、一般の読書人が締め出されるというのでは困るのである。また、家庭の主婦の図書館利用率の少ないのも気にかかる。女性は家庭にはいったとたんに、図書館よ、さようならで終ってしまう傾向にあるらしい。また、各地を巡回する自動車文庫もほしい。暖房・冷房の設備も充実させてほしい。そういう内外のさまざまな要望がどう生かされてゆくか。図書館の本来の目的について、当局も神戸市民の一人一人も、ともに考えてみるべきではなかろうか。

**GIRARD-PERREGAUX**

Fine watches since 1791



K18ひも釦  
女持GP

特約店 **美田時計店**

神戸・元町3丁目  
TEL 33-1798・8798

夢みる  
佳き日の  
幸わせをつむ  
あなたのベール

婦人帽子  
**マキシン**

神戸・トアロード  
TEL神戸33-6711-3

東京・銀座3-2  
TEL東京535-5041



あなたとパリを結ぶ..  
**フランスパン**

本店 三宮センター街 TEL 395481~4

芦屋店 TEL 215137

サンドウィッチャーラー TEL 395485

フランスパンコーナー TEL 394985

須磨寺店 TEL 718752

垂水店 TEL 773603



\* さんちか・レデスタウン  
10月1日オープン!  
**プリンス**

コスチュームアクセサリーの店  
**芸 げい む 夢**

神戸店 / トアロード ④ 8643 2293  
大阪店 / 心斎橋ロビー (211) 5153 1044  
心斎橋名店街(小丸ビル) 211 8503